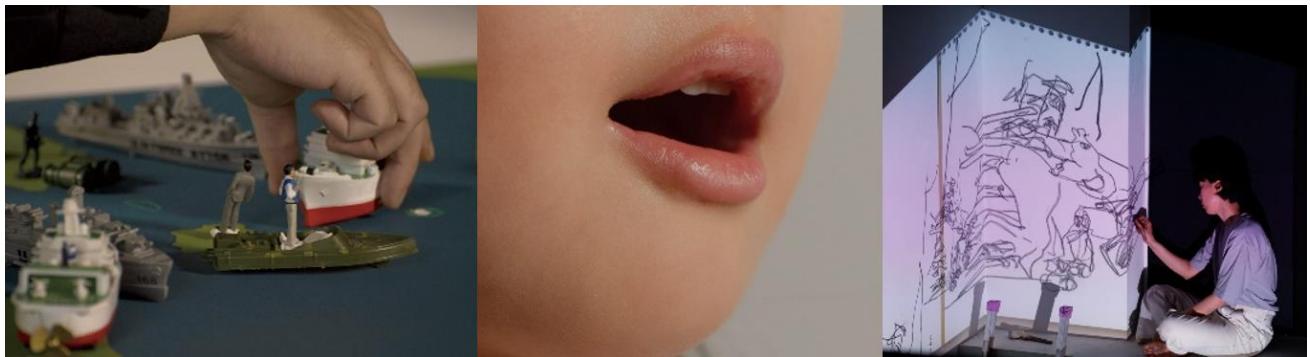


関西ゆかりの若手作家3組が“ふるえ”の表現を探る展覧会

「ニューミューテーション#6 井上裕加里 ソー・ソウエン 高田マル
『ふるえのゆくえ』」 1月17日より開催

オープニングトーク日程： 2026年1月17日（土）15:00～ 会場：京都芸術センター

京都芸術センター（京都市中京区）は、関西ゆかりの若手作家3名による展覧会「ニューミューテーション#6 井上裕加里 ソー・ソウエン 高田マル『ふるえのゆくえ』」を2026年1月17日～3月15日に開催します。本展は、表現の「ふるえ」という感覚を通じて個と他者、身体と社会の関係を問い直すもので、初日には作家3名が登壇するオープニングトークイベントが予定されているほか、会期中にはさまざまなイベントやワークショップが開催されます。



映像・サウンドインスタレーション・壁絵を通して、人ととの関係や感覚の変化を描く

「ニューミューテーション」は、若手作家の発表機会を支援するシリーズ展示で、今回が第6弾となります。本展では関西圏の芸術系大学を卒業し活動する井上裕加里、ソー・ソウエン、高田マルの3名による京都芸術センターでのクリエーションを経た新作を発表します。いずれの作品も、「ふるえ」という言葉が喚起する緊張や連帯、身体感覚の可能性を軸に据えた表現となっています。

井上裕加里は、アイデンティティや国家と個人の関係、他者との「理解し合えなさ」に着目し、映像作品を通して個人に内在する揺らぎを表現します。ソー・ソウエンは、「声」がもつ全体性や連帯、抵抗、逸脱といった性質に注目し、空間全体を用いたサウンド・インスタレーションを発表します。高田マルは、京都芸術センターの外壁を舞台に、約2か月の制作期間をかけた大規模な壁絵シリーズを展開。展覧会最終日には、参加者とともに作品の線を消していく「壁絵クロージング」を実施予定です。

展覧会概要

展覧会名：ニューミューテーション#6 井上裕加里 ソー・ソウエン 高田マル「ふるえのゆくえ」
会期：2026年1月17日（土）～3月15日（日）
会場：京都芸術センター ギャラリー南・北、建物外壁ほか
料金：無料
主催：京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）
WEBページ：<https://www.kac.or.jp/events/20260117-0315/>

オープニングトークイベント

展覧会の開催を記念し、初日には出展作家3名が制作の背景や表現に込めた思いを語るオープニングトークを京都芸術センターにて開催します。

日時：1月17日（土）15:00～16:00（14:30開場）
会場：京都芸術センター 茶室
登壇：井上裕加里、ソー・ソウエン、高田マル
モデレーター：三好帆南（京都芸術センター）
参加費：無料、要申込 <https://forms.gle/yiEHt1BnLMxLi1vXA>

井上裕加里

1991年、広島県生まれ。2014年成安造形大学芸術学部芸術学科美術領域現代アートコース卒業。

戦後の東アジアを中心とした国家間の複合的な状況のなかで生きる人々の声に耳を傾け、私たちと国家のあいだにある境界の力学を探ってきました。語られてこなかった言葉に焦点をあて、大きな歴史や文化の枠組みでは見えにくい声を手がかりに、社会構造や身体に敷かれたルールを問い合わせています。

本展では、兵役経験をもつ知人へのインタビューや心理学的な質問、基礎教練の習得を通して、アイデンティティや国家と個人の関係、理解し合えなさに着目した映像作品を発表します。また、制作経験を起点に抵抗のあり方を探るワークショップを会期中に実施し、その記録映像もあわせて公開します。

ソー・ソウエン

1995年、福岡県北九州市生まれ。2019年京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース卒業。

生の根源的な事象を主軸に、絵画やインスタレーション、パフォーマンスなどを発表してきました。個としての生の循環を出発点に、身体を通して他者との関係性を紡ぎ、アイデンティティの在り方を探求しています。

本展では15名の参加者とともに「こんな世界であってほしい」という声をいくつかのルールのもと持続させる制作ワークショップを実施しました。日常的に用いられる「声」がもつ全体性や連帯、抵抗、逸脱といった性質に着目しハーモニーや群衆心理に迫るサウンド・インスタレーションを発表します。

高田マル

1987年、神奈川県生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。

現代における「描く・見せる・見る」という行為を、自身の実践を通して検討してきました。本展では、京都芸術センターのグラウンドを囲む元小学校の校舎外壁に、約2か月の制作期間をかけ、これまでで最大規模となる壁絵シリーズを発表します。

日記帳に描いた絵を外壁に拡大投影し、重なり合う線をなぞって描き、最終的には消えていく本シリーズは、個人的な行為が公共の場で共有されることで生じる変化を問いかけます。展覧会最終日には、参加者とともに線を消していく壁絵クロージングを行います。



井上裕加里 ©Wataru_SHIN



ソー・ソウエン



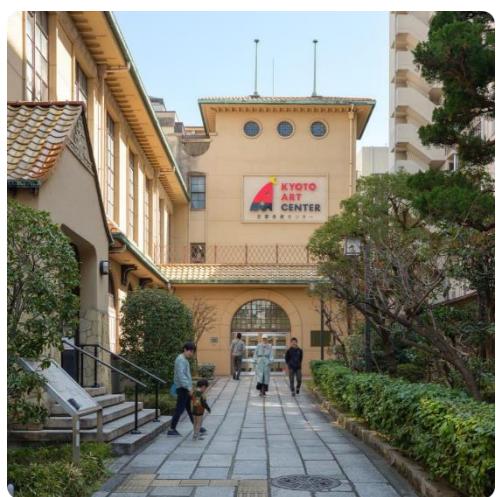
高田マル

「ニューミューテーション」とは

アーティストたちの制作手法に着目し、その独自のミューテーション（突然変異）の表現を探ることを目的として2018年に始まったシリーズ企画。関西圏の芸術系大学を卒業／在籍し活動中の若手作家を数多く取り上げてきました。制作における作家の「ややこしい」手法に着目し、彼ら独自のミューテーション（突然変異）の源を探ります。

京都芸術センター

京都芸術センターは、芸術文化の振興を目的に2000年4月に開設されました。若い世代を含む多様な芸術家の制作支援を軸に、芸術文化に関する情報発信や、芸術家と市民の交流促進に取り組んでいます。芸術家が創作活動を行い、その成果を発表するための制作室の提供をはじめ、展覧会、伝統芸能、演劇、ダンス、音楽などの公演やワークショップを実施。芸術家の発掘・育成や伝統芸能の継承、国内外の芸術家を受け入れるアーティスト・イン・レジデンス事業にも力を注いでいます。これらの活動を通じ、京都における都市文化創造の拠点として、芸術の新たな価値を社会に開く場づくりを進めています。



京都芸術センター外観